

<研究名称>

ランバート・イートン症候群に対する治療

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 脳神経内科
職 名 部長
氏 名 浦 茂久

実施担当者 所 属 脳神経内科
職 名 医師
氏 名 野村 太一

<研究期間>

2021 年 8 月（認可が下り次第）

<診療・研究の目的>

ランバート・イートン症候群は筋力低下、疲れやすさ、深部腱反射低下、自律神経障害、反復運動に伴う筋力の改善を特徴とする疾患であり、根治治療の難しい疾患である。3,4-ジアミノピリジンは神経筋接合部に作用して神経終末からのアセチルコリンの放出を促進することで四肢の筋力改善に寄与する。そのため、欧米では標準治療となっている。本邦でも認可は下りていないものの、多くの臨床経験からその効果が認められている。ランバート・イートン症候群の患者の ADL 改善のために、本試薬の使用を申請いたします。

<実施内容（方法）>

1 回 5 mg の 3,4-ジアミノピリジンを 1 日 3-4 回、毎食後や就寝前に服用とする。その後、症状や電気生理学的所見を参考にしながら、1 日量 100mg を超えない範囲で服用量を調節していく。必要に応じてコリンエステラーゼ阻害薬を含めた他の治療薬を併用していく、

3,4-ジアミノピリジンが有用の場合には内服を継続し、無効な場合や副作用がつよい場合には中止とする。

<危険性（副作用）等>

口周囲、手指の異常感覚、嘔気、腹痛、下痢などの消化器症状、喘息発作の誘発、痙攣、不眠などが報告されている。また、過量内服での不整脈の誘発も報告されている。

その他、これまでに報告されていない副作用が出現する可能性もあり、薬剤使用に関しては十分な観察と検査を行う。

<倫理上問題になると考えられる事項>

本薬品は本邦では医薬品として認可されておらず、実験試薬としてしか販売されていない。化学薬品メーカーで精製された試薬を使用するが、微量の不純物混入は完全には除外できない。そのため、これまでに報告されていない副作用が出現する可能性があり、薬剤使用に関しては十分な観察と検査を行う。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ
〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院

脳神経内科 野村 太一

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648